

自分の命は自ら守る ～災害を自分事として考える～

校長 原 浩一郎

元日に石川県で「令和6年能登半島地震」が発生しました。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表します。

子どもたちには、このたびの地震を他地域の災害として捉えるのではなく、上宇部でも起こりうることから、自分事として考えてほしいと思います。

本校としても、「自分の命は自ら守る」という高い意識と行動力を育む防災教育の一層の充実を図りたいと考えています。

その一環として、本校では、毎年度「予告なし避難訓練」を行っています。

今年度も2学期に実施済みです。ご承知のとおり、地震はいつ起こるか分かりません。突然地震が発生しても、落ち着いて適切な行動をすることが大切です。従来の「予告して実施する避難訓練」だけでは、状況に応じて身を守る行動をする力が養われません。

しかし、何もかも「予告なし」で実施した場合、子どもたちが慌てて行動してけがをしたり、パニックに陥ったりする可能性があります。

そこで、年度の初期の段階には、基本的な避難方法等について理解・確認するため、通常の「予告して実施する避難訓練」を行います。その後の「予告なし避難訓練」の実施に当たっては、事前に具体的な実施日時は知らせませんが、「実施予定の期間」はらせています。その上で、地震が起きた時の心構えや身の安全を確保する方法等を指導しています。

今後は、事前に予告する内容を段階的に減らすこと、地震発生時に停電することを想定し、放送設備を使用しないことにより、実際の地震発生場面に少しずつ近づけて、避難訓練を実施していくことを考えています。

なお、先日1月16日（火）には、5年生が、宇部市防災危機管理課と連携し、山口大学から講師を招聘して、デジタルハザードマップを活用した防災学習を実施しました。

ご家庭におきましても、もし地震に限らず災害が発生した場合、どこに、どのように避難するか話し合っておかれるとよいと思います。

